



2013年7月10日

出口の迷路

公益財団法人 国際通貨研究所
理事長 行天 豊雄

FEDの出口政策をめぐる思惑で震源地の米国から世界中の金融市場に波紋が広がった。6月20日の公開市場委員会後の声明やバーナンキ議長の記者会見は当初は従来のスタンスと変化なしということで冷静に受け止められたのだが、一息ついたら突然「緩和政策転換に向けて一歩前進」ということになってしまい、ドル高、株安、新興国売りという展開になった。

何ヶ月も先に何が起るかという憶測をめぐって今日の相場が動くというのも考えてみれば奇妙な話だが、それも何かを暗示していると云える。一つは、米国のそして世界の景気回復がまだまだデリケートな段階にあるということである。マーケットはそれに自信がないから、バーナンキのお見立てに過剰に敏感になるのである。たしかに、2007年以降の危機で一番深刻だったのは住宅市場と雇用市場だった。最近この2市場に改善が見られることが楽観ムードの背景にあるのだが、とくに雇用市場の回復はまだまだ安心できる状態ではない。さらに、米国のみならず世界中の政府と中央銀行は、すでに蓄積された龐大な債務と流動性をこれから5年、10年かけてどうやって調整できるのか、本当のところ全く自信がない。

もう一つの事情は、今やマーケットは「変化の無い状態」には耐えられないのである。金融ビジネスは変化によってのみ生存しているのであり、変化が無ければ、変化があったと自らに思い込ませなければならないのである。

こう考えると、米国の出口をめぐる思惑は今後FOMCの度に飛び交うことになるだろう。日本ではアベノミックスの金融緩和効果が調整過程に入り、第三の矢の成長政策がもたついで、一寸逆風が吹いているから、米国の出口問題に皆の関心が向くのはマイナスではない。しかし事実日本の金融市場にさまざまな波乱を及ぼすのであるから、それを超えてデフレ脱却、成長促進を実現する仕事は難しくなる面もある。しかし、基本的に云って、米国経済が回復し、出口政策が実行されるということは日本経済にとっても世界経済にとってもプラスであることは間違いないのである。目下のところ市場は自信不足に悩まされているから、出口は不必要に迷路となっている。

(株式会社マネーパートナーズへの寄稿)

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべて御客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2013 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: 3-2, Nihombashi Hongokucho 1-chome, Chuo-ku, Tokyo 103-0021, Japan

Telephone: 81-3-3245-6934, Facsimile: 81-3-3231-5422

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2

電話 : 03-3245-6934 (代) ファックス : 03-3231-5422

e-mail: admin@iima.or.jp

URL: <http://www.iima.or.jp>